

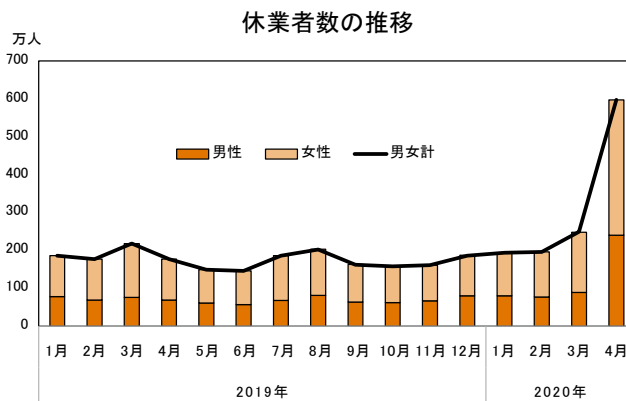
ちょっと気になるデータ

# 休業者の状況

## —労働力調査（基本集計）2020年4月分結果から—

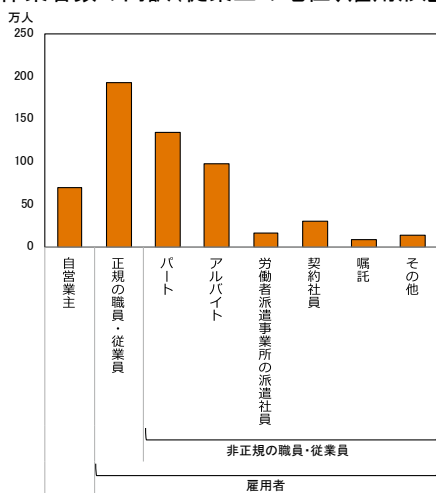
2020年5月29日に総務省統計局から「労働力調査（基本集計）」2020年4月の結果が公表された。2020年4月の就業者数<sup>注1</sup>は6,628万人で、前年同月に比べて80万人の減少となった。男女別では、男性が3,698万人で27万人の減少、女性が2,930万人で53万人の減少となった。また、就業者数のうち休業者数は597万人で、前年同月に比べて420万人の増加となった。男女別では男性が240万人で171万人の増加、女性が357万人で249万人の増加となっている<sup>注2</sup>。

今回、「労働力調査（基本集計）」では、追加参考表として、「休業者の内訳」の統計表が公表されており、



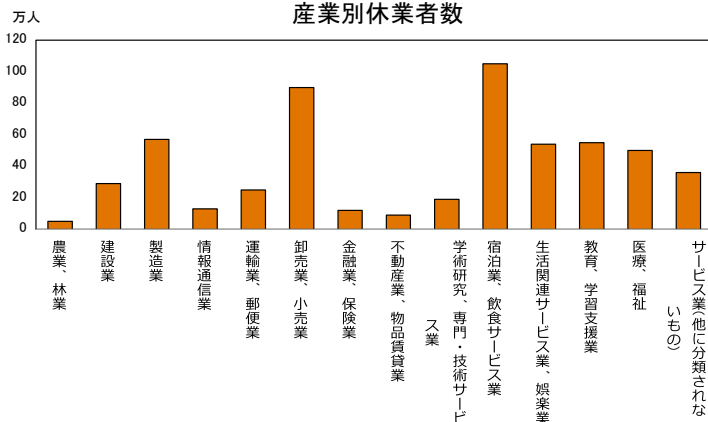
その結果も用いて、大幅に増加した休業者の詳細についてみてみたい。

### 休業者数の内訳(従業上の地位、雇用形態別)



休業者(597万人)の内訳は、「雇用者」516万人、「自営業主」70万人となっており、休業者である雇用者の内訳をみると「正規の職員・従業員」193万人、「非正規の職員・従業員」300万人となっている。さらに休業者である「非正規の職員・従業員」の内訳をみると「パート」134万人、「アルバイト」98万人、「契約社員」30万人などとなっている。「アルバイト」(407万人)の2割強が休業者となっている。

### 産業別休業者数



休業者を主な産業別にみると、「宿泊業、飲食サービス業」で105万人、「卸売業、小売業」90万人、「製造業」57万人、「教育、学習支援業」55万人、「生活関連サービス業、娯楽業」54万人などとなっている。「宿泊業、飲食サービス業」では就業者数(373万人)の3割近くが、「生活関連サービス業、娯楽業」では就業者数(225万人)の2割強が休業者となっている。

注1 「従業者」と「休業者」を合わせたもの。「従業者」は調査週間に賃金、給料、諸手当、内職収入などの収入を伴う仕事を1時間以上した者。「休業者」は仕事を持ちながら、調査週間に少しも仕事をしなかった者のうち次の者。①雇用者で、給料・賃金の支払を受けている者又は受けることになっている者。②自営業主で、自分の経営する事業を持ったままで、その仕事を休み始めてから30日にならない者。  
注2 休業者の男女別の対前年同月増減はe-Statに掲載されている休業者数から算出した。

(調査部 統計解析担当)